

戦国夢街道

ハイキングコース

徳川家康公ゆかりの地



遠州森町のご案内

交通アクセス

●新幹線（こだま）ご利用の場合

新大阪（2時間30分）→ 掛川駅 → 遠州森町
東京（1時間50分）→ 掛川駅 → 遠州森町
天竜浜名湖鉄道（25分）

●秋葉バスをご利用の場合

<遠州森町行・気多行>

袋井駅（28分）→ 遠州森町

●お車をご利用の場合

新東名遠州浜スマートIC（約3km）

新東名森掛川IC（約3km）→ 森町

東名袋井IC（約10km）

●天竜浜名湖鉄道遠州森町駅

TEL（0538）85-2211

●秋葉バスサービス

TEL（0538）85-2141

●町営バス（予約）

TEL（0538）85-9800

●レンタサイクル貸出所

天竜浜名湖鉄道 遠州森町駅

TEL（0538）85-2211

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町観光協会 TEL（0538）85-6316

森町の位置図



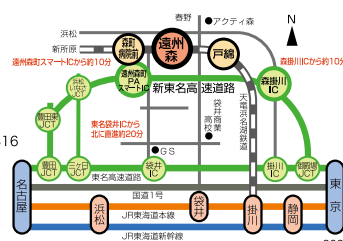
戦国夢街道パーキング



約50台（観光バス可）



コース起点のトイレ



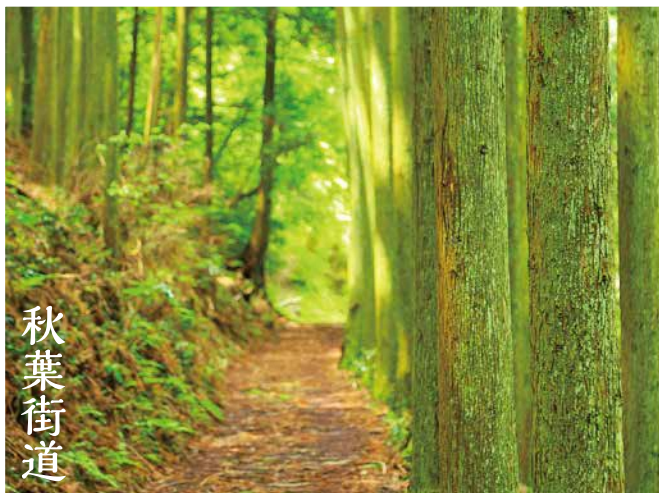
森町の山間地を通るこの街道は、古くから遠江國（静岡県）と信濃國（長野県）を結び、「塩の道」とも呼ばれました。戦国時代には、山中一円の物資の集散地である森の市場から続く「塩の道」は、山中への物資の交易に欠くことができない重要な街道として、多くの武将が支配をめぐって争いました。

天正二年（一五七四年）、徳川家康公は、武田方天野氏の居城「大居城」（浜松市）を攻撃しますが、大雨により気田川が増水し進軍ができず、兵糧もつき退却を余儀なくされます。軍勢を引き上げる途中、徳川軍は、この街道で天野氏の追撃を受けます。山中の険しい道で、悪戦苦闘の末、家康公は命からがら逃げのび、天方城（森町）にたどり着くこととなります。この戦いは、徳川軍にとって多くの武将を失う散々な負け戦でありました。今もこの街道には、家康公を初めとする武将や古戦場の言い伝えが残されています。

また、この街道は、江戸時代には大伏せの神「秋葉山」への表参道として「秋葉街道」と呼ばれ、多くの道者が行き交う「信仰の道」としても大いに賑わいました。秋葉常夜灯や道標などが今もその面影を伝えています。

自然と歴史が残されたこの山々や原野は、今から約四五〇年前、徳川家康公や多くの武将たちが命懸けで戦った場所であり、武將たちの夢にちなみ、この街道を「戦国夢街道」と名づけました。「戦国夢街道」は、徳川家康公ゆかりの地として往時に想いを馳せ、自然と歴史を感じながら日本の原風景の山里をめぐるハイキングコースです。





秋葉街道



山桜の大木



紅葉



四季の自然を感じ
歴史の街道と武将達の夢に思いを馳せ
徳川家康公ゆかりの地をめぐる

徳川家康公ゆかりの地「戦国夢街道ハイキングコース」は自然と歴史、家康公にまつわる伝説が各所に残されています。春は山桜、初夏は萌黄色の茶園と清流、秋は紅葉、冬の澄んだ空気と四季の自然を感じながら歴史に思いを巡らせるハイキングコースです。

ルートは、自然堪能派の半命コース（4.1km）、歴史堪能派の三丸コース（5.5km）、健脚派の塩の道コース（8.5km）の3コース。いずれも若き家康公の伝説が残されています。

地蔵森と茶畑



大府川
（西十八瀬川）



秋葉山常夜燈





山里の自然と歴史をめぐる3コース

自然堪能派の方
■半命コース 4.1Km

歴史堪能派の方
■三丸コース 5.5Km

健脚派の方
■塩の道コース 8.5Km



大久保 八幡神社

信濃への交通路としてこの村に人が住むようになったのは、室町中期の頃と言われています。そこに住む村人の心のよりどころとして村の各地に神社が祀られました。八幡神社はこの地に貞享元年（1684年）に建立されたと言われ、神殿は森町に現存する古い建造物の一つです。



権現森

天正二年（1574年）の徳川家康の犬居城攻めは、大雨のため撤退。天野軍の激しい追撃により家康軍がこの大久保まで敗走してきた時、長雨のため幸治沢の谷より濃い霧が立ちのぼり、辺り一面を覆ったのです。家康一行はこの霧に守られ、樫や椎の太木の茂る森の中に逃れ、追撃をかわしたのです。後にこの森を「権現森」、幸治沢を「霧吹き谷」と言うようになったそうです。



地藏森

地藏森のお地藏様をお祀りした時期や経緯については、はっきりした記録は残っていませんが、今からおおよそ三百年前の徳川五代將軍綱吉公治世の元禄の頃とも伝えられています。地藏菩薩は「旅人や子供を守る」という信仰があるといわれており、勧請のいきさつは、当時の疫病の流行や旅人の災難などが考えられます。



白髭神社

遠い昔から中野村の氏神として祀られている白髭神社。棟札によると、享保六年（1721年）に再建されたことがわかります。白髭神社というのは、比良明神で名高い琵琶湖西岸の白髭神社が元になり、各地に分霊して祀られたものと推定されます。御祭神の猿田彦神は降臨の際の嚮導（道案内）の神です。



イメージ



この道しるべが
コース案内の目印です。



七人塚

この塚は、今を去る四百有余年前、戦国の世に散った武将たちの眠る塚です。天正二年四月（1574年）徳川家康は、自ら兵を率いて武田方の天野氏の居城「犬居城」を攻めましたが、大雨により撤退。天野軍による地の利を生かし激しい追撃により徳川軍は、一ノ瀬まで退く間に、多くの武将や兵士が討死したり、負傷したりしました。



龍池山 蔵泉寺

静岡県文化財指定の「大般若経巻物六百巻」が寺宝として保存されている蔵泉寺。この経典は今を去る六百有余年前、室町時代に源氏の落人、当村牛頭天王宮の常駐源三位光盛が勧進檀那となり、大般若波羅蜜多經を書写し、「御倉郷田尾天王宮」に納めたと経典の奥書に記されています。



花立茶屋

花立家は、昔から茶屋を営むかたわら、馬による生活物資の輸送などを明治初期まで家業にし、往時は多くの旅人で賑わっていました。名字帯刀を許され、代々の当主は、花立孫四郎を名乗っていました。花立姓は、この家の前をいつ通っても、いろいろな花が咲いていることに由来するそうです。



万歳坂

このあたり一帯は、浜松城の徳川軍と犬居城の天野軍（武田方）の戦った古戦場で戦いを優勢に展開した天野軍が、この坂付近で勝どきをあげたので、ここを「万歳坂」と呼ぶようになったそうです。近年まで武士が着用した鎧などの金銀を含んだ「銀石」という石が出ると伝えられていました。



鵜殿渚

天正二年（1574年）四月、徳川家康は兵二千を率い、犬居の瑞雲寺に本陣を張りました。大雨により川は増水。徳川軍は、信州街道を一ノ瀬を目指し撤退。一方、犬居城の天野軍は、撤退する徳川軍の動きを察知し、襲いかかった。徳川軍の武将は善戦したが、ついに一ノ瀬の地で徳川の武将「鵜殿藤五郎光成」は戦死をとげた「三河物語」は伝えていいます。



注意

- ハイキングは身軽な服装と運動靴などご利用ください。●狭い山道は走らないようにしましょう。●ハイキング中の「歩きスマホ」はおやめください。●日陰や風通しのよいところで定期的に休憩をとみましょう。
- 休憩所など決められた場所以外での喫煙はご遠慮ください。●イノシシ避けの電柵に触れないようにしましょう。●コース内の自然の動植物を大切にしましょう。●ゴミなどは各自持ち帰りをお願いします。
- 駐車場は決められたパーキングをご利用願います。●自然災害等によりコースが通行できない場合も生じますのでご注意ください。●ハイキング中の事故や負傷等につきましては、責任を負いかねます。